

台本ディベートのすすめ

何から始めればよいのか

私がディベートを授業に取り入れた当時は、生徒にその経験はなく、授業者である私にも指導経験はありませんでした。書籍を読むことで、イメージをもつことはできました。生徒に、どのように指導したらよいのか考えました。やったことがないことを口で説明しても伝わらないでしょう。

そこで、考えました。とりあえず試しにやってみるしかありません。幸いにも「モデル・ディベート」の資料がありました。論題は「制服は必要か」でした。中学生にとって身近で興味のあるテーマです。ディベートの導入として、モデル・ディベート、模擬ディベートなどの名称がありますが、「台本ディベート」が最も端的でわかりやすいと思います。

台本ディベート「制服は必要か」

肯定側チーム4名、否定側チーム4名、司会1名の生徒が配置につきました。それぞれの手元には台本があります。少しでも臨場感を出すために、判定員である他の生徒には、台本を配布していません。メンバーの一人一人が自分の出番を確認します。

いよいよ司会者の発言を皮切りに台本ディベートが始まりました。最初は、恥ずかしさもあり、たどたどしさも見られたメンバーもいました。しかし、途中からは、まるで実際に戦っているかのように乗ってきました。そして、最後は、実際に判定を行ってみました。メンバーは、台本があるため、安心して発言することができます。ディベートを見ている側の判定員の生徒たちは、次はどんなやりとりが繰り広げられるのかと興味津々です。

この活動により、ディベートのイメージがわき、どんなものかがよくわかるようになりました。これから行われる実際のディベート・マットへの意欲づけにもなりました。授業者としては、少なからず手ごたえを感じることができました。

ディベートの導入教材

台本ディベート以外にも導入としての指導法があります。実際に行われたディベートの映像を見せるというのが、一般的には定石ではないでしょうか。映像の内容にもよりますが、それを見せることで、容易にディベートがどんなものなのかを理解させることができます。一つの到達点を示すことにもなるでしょう。

しかし、仮に「ディベート甲子園」のような高いレベルのものを見せられた生徒たちは、どう思うのでしょうか。一部の生徒は別として、きっと、あまりにも自分たちの今とかけ離れた中学生の存在に、意欲が高まることはないように思われます。

映像であれば、昨年度の生徒が実際に行ったものを見せるのがいいのではないのでしょうか。今の自分たちに近いものであり、目標にもなります。

いろいろとやってみた結果ですが、台本ディベートが一番自然に自分たちのディベートへと誘ってくれるように思います。「制服は必要か」は、時代が変わっても、中学生にとっては興味があるテーマの一つです。ディベート導入のための定番論題と言えます。ディベートに限らず定番教材もっているのは強みとなります。